第 120 回　フランス七月革命とその影響

1　ギリシアの独立

・ヨーロッパ各地で起こったナショナリズムの運動は、全て失敗していた。
→初めて成功したのが、（　　　　　　　　　　　）であった。

・1821 年、（　　　　　　　　）の支配下にあったギリシア人が、反乱を起こした。
→イギリスの詩人（　　　　　　　）や、フランスの画家（　　　　　　　　）ら、
ヨーロッパの知識人が、情熱的にギリシアの独立を支援した。
→東地中海に野心のあるイギリス、フランス、ロシアがギリシアの独立を支援した。
→1829 年のアドリアノープル条約と 1830 年のロンドン会議で、ギリシアの独立が承認された。

イギリスのロマン主義（ロマン派）の詩人バイロンは、義勇軍としてギリシア独立戦争に参加した。現地で病死している。イケメンで有名だった。
バイロン

フランスのロマン主義を代表する画家。「キオス島の虐殺」で、オスマン帝国（トルコ人）の残虐さを訴えた。なお実の父は、あのタレーランらしい。
ドラクロワ

ドラクロワ作 「キオス島（シオ）の虐殺」

2　フランス七月革命

ルイ 18 世
タレーランによれば、「きわめつきの嘘つきで、恩知らず」。

・1815 年のウィーン議定書により、フランスではブルボン朝が復活していた。
※この政治体制を（　　　　　　　　）という。

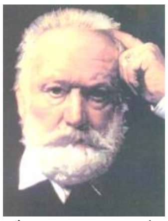
☆ブルボン朝（復古王政）（1814～1830 年）

◆（　　　　　　　）（在位 1814～1824 年）
・ルイ 16 世の弟で、亡命先から帰国して即位しブルボン朝を復活させた。

シャルル 10 世
七月勅令は国民の大反発を受けた。七月革命でイギリスに亡命し、最後はチェコで死んだ。

◆（　　　　　　　　　）（在位 1824～1830 年）
・聖職者と貴族の保護や、国民軍の廃止などを行い、国民の反発をまねいた。
→1830 年、国民の不満をそらすため、（　　　　　　　　）へ遠征を行った。
→アブドゥル=カーディルの抵抗を受けた。

・（　　　　　）年、反対派が当選したため、議会を未招集のまま解散した。
→七月勅令で選挙資格の制限や言論統制を強化した。
→怒った民衆がパリで蜂起し、シャルル 10 世は追放された。
→（　　　　　　　　　）の（　　　　　　　　　）が即位した（七月王政）。
※この革命を（　　　　　　）という。


ヴィクトル=ユゴー

スタンダール

ふたりともフランス文学史上に残る大作家。たとえ読んでいなくても、著者の名前と作品名くらいは知っておいて欲しい。

アブドゥル=カーディル
アルジェリアの民族運動を指導した。長く抵抗を続けたが、1847 年にフランスのカヴェニャック将軍に敗れて降伏した。

ラ=ファイエット
まだ生きていたのかラ=ファイエット。前と比べて、髪型が近代的になった。七月革命のときは、73 歳の年齢で、革命側の将軍となった。

３　七月革命が外国に与えた影響

・フランスで七月革命が起こると、ドイツ各地やポーランドで反乱が起きるなどヨーロッパ各地にその影響が広がっていき、ウィーン体制は大きく揺らいだ。

＜　　　　　　　　＞

・1830 年、ポーランド立憲王国で、（　　　　　）の支配に対する反乱が起こった。
　→ロシア軍がワルシャワを占領して、失敗に終わった。

・ポーランド人の音楽家（　　　　　　）は、反乱失敗の知らせを聞き、悲しみと怒りのなかで、「革命のエチュード」を作曲した。

＜ネーデルラント＞

・1830 年、ウィーン議定書によりオランダの支配を受けていた（　　　　　　）で暴動が起こり、翌年に立憲王国が成立した。

＜イタリア＞

・1831 年、中部イタリアでカルボナリが再び反乱を起こしたが失敗した。

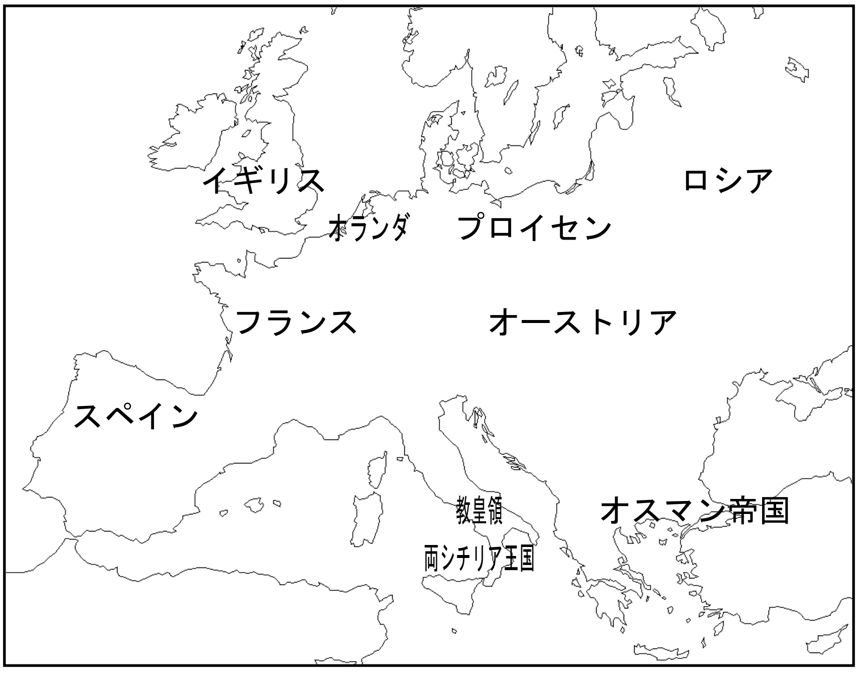
ショパン

ピアノの詩人と言われる音楽家。晩年はフランスに住んでいたが、遺言により心臓は故国ポーランドに葬られた。

ベルギー独立革命

ベルギーについては、オランダ独立戦争の復習もしておこう。ブリュッセルでは「血の市街戦」と呼ばれる戦闘が起きた。

マッツィーニ

カルボナリによるイタリア蜂起が失敗すると、亡命先のマルセイユで青年イタリアを結成した。
イタリア統一の三傑のひとり。

ドラクロワ作「民衆を導く自由の女神」
七月革命を描いた作品で、シルクハットの男性は、ドラクロワ自身がモデルとされている。
パリのルーヴル美術館蔵。
私（佐野）は大学に合格した春、上野の美術館に1ヵ月だけ貸し出されていたのを友達と見に行きました。懐かしい思い出です。